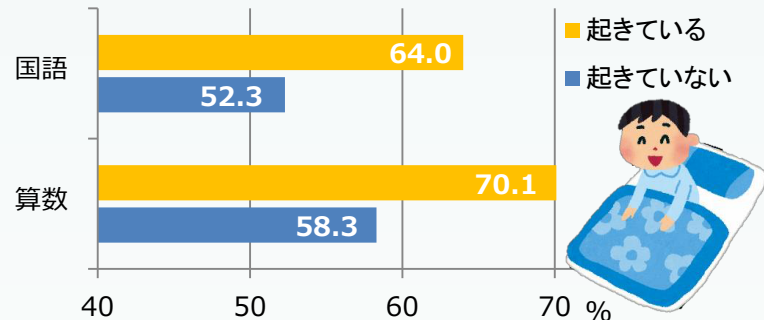


●生活習慣と学力は関係あるの？

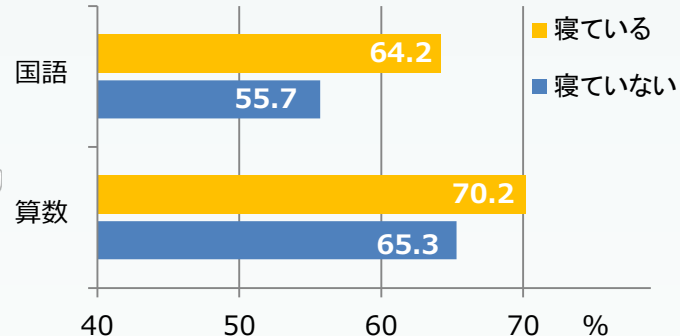
子どもたちの学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、家庭生活を充実させることも欠かすことができません。下記のポイントについて、改めて確認してみましょう。

※回答項目（例：「している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない／していない」）のうち、「している／していない」など2つを取り上げて比較しています。

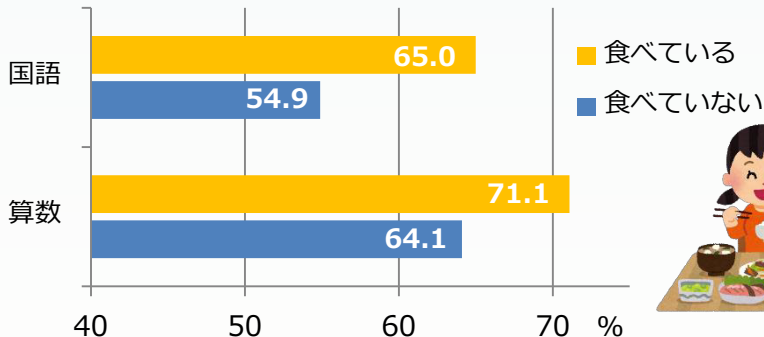
○毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



○毎日、同じくらいの時刻に「寝ている／寝ていない」と答えた児童の正答率

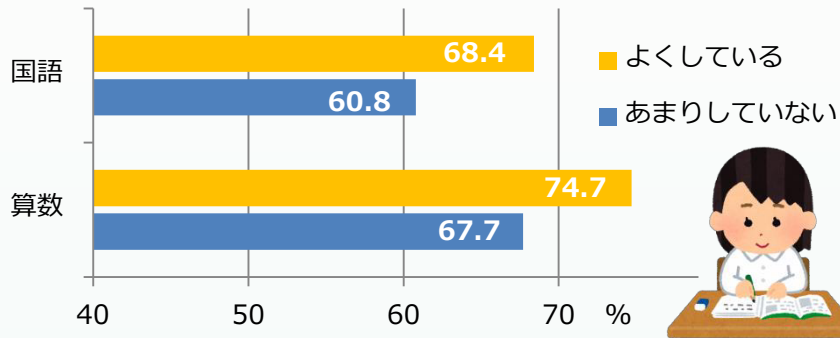


○毎日、朝食を「食べている／食べていない」と答えた児童の正答率



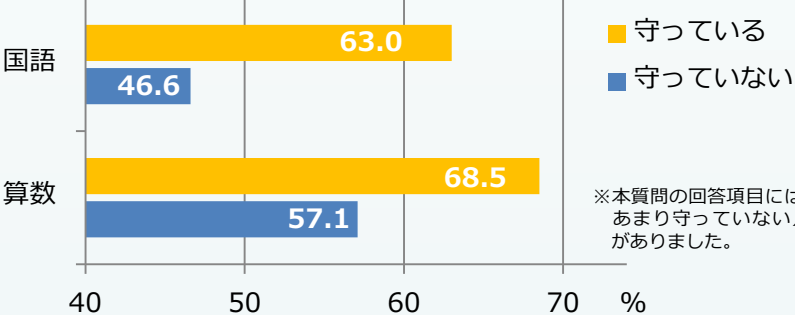
- 規則正しい生活習慣を身につけさせ、**早寝、早起き**を心がけることが大切です。
- 毎日、朝食を食べている**児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。

○自分で計画を立てて勉強を「よくしている／あまりしていない」と答えた児童の正答率



- 自分で計画を立てて学習する習慣が身につけている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。
- 今後も**家庭での学習も大切**にして、計画的に学習する力を身につけていくことが大切です。
- スマホやPCなどは使用できる時間や場所を決めるなど、**計画的な時間の使い方**を身につけさせることが大切です。

○携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使いについてきまりを「守っている／守っていない」と答えた児童の正答率



※本質問の回答項目には、他に「だいたい守っている／あまり守っていない／約束はない／持っていない」がありました。



←加古川市の学力向上についての取組はコチラ

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000
電話 079 (427) 9354 / FAX 079 (421) 4422

令和3年度 小学生版 加古川市の学力・学習状況



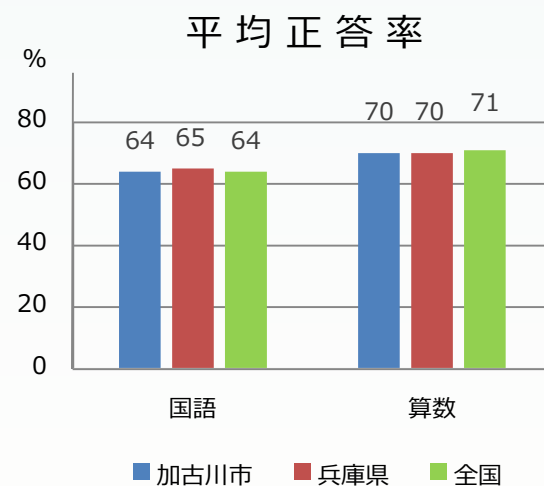
令和3年5月、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、児童生徒の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的としています。この調査における加古川市の子どもたちの現状を分析し、結果をまとめました。

掲載している内容は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、授業改善や家庭と学校との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたくと考えています。

●国語・算数の結果は？

◎：成果 △：課題



国語

- ◎ 語句の使い方や、スピーチの構成を考える。
- △ 目的や意図に応じて理由を明確にしなが、自分の考えを書いたり、主語と述語の関係を理解したりする。

算数

- ◎ 基礎的な計算や、グラフの値の読み取りを行う。
- △ 組み合わされた図形の特徴に着目して考えたり、複数のデータを比べて割合の違いを説明したりする。

- 基礎的な知識やスキルは身につけていますが、思考力・判断力・表現力には全国と同様に課題が見られます。
- 記述式問題の無解答率は低くなってきており、これまで取り組んできた協同的探究学習の成果が少しずつ表れてきています。

●苦手としているのはどんな問題？

国語

【資料】を読み、面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのか、〈条件〉に合わせて書きましょう。

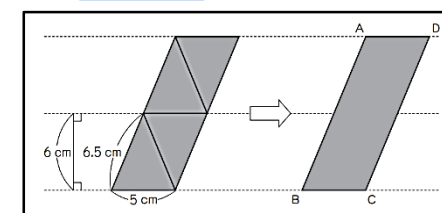


- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションでの使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 50字以上、70字以内にまとめて書くこと。

面ファスナーが宇宙で使われていることは書かれていますが、資料からそのよさを取り上げて書けていない解答が多く見られました。

算数

平行四辺形の面積の公式を使い、平行四辺形ABCDの面積を求めます。



辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。

そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積も求めましょう。

平行四辺形の面積を求めることはできていますが、平行四辺形の高さの求め方については書かれていない解答が多く見られました。

全国的に、自分の考えを言葉や図を用いて表現する力や、いくつかの資料を関連づけて考える力が求められています。

本市では、そのような力を育むため、

協同的探究学習に取り組んでいます！！



●協同的探究学習でどんな力がつくの？

協同的探究学習とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人ひとりの子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「わかる学力」が重要になります。協同的探究学習により一人ひとりの「わかる学力」や自己肯定感が育ちます。



加古川市学力向上推進委員会顧問
東京大学大学院 藤村 宣之 教授

自分で考える力がつきます！

協同的探究学習では、解き方や考え方が1つではない問題を提示し、自分の力で解く時間をしっかりととっています。自分の持っている知識を使って、自分なりの方法で問題を解く力が身につきます。

Point あきらめずに自分なりの方法で解く力が身につく、無解答率が低くなります！！

根拠を明確にして書く力がつきます！

協同的探究学習では、理由や根拠を大切にしています。「なぜ、そう考えたのか」を一人ひとりが書くことで、資料や文章の中から、必要な情報を読み取り、理由や根拠をはっきりさせて、表現する力が育まれます。

Point 全国的に課題となっている、資料を基に表現する力が身につきます！！



学級全体で考えを出し合うなかで、新たな気づきが生まれます！

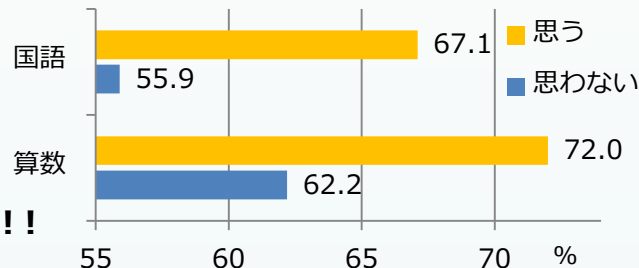
協同的探究学習では、学級全体で共有することを大切にしています。自分の考えや友達の考えから違いやつながりを見つけたり、新しいものの見方・考えに気づいたりするなかで、自身の考え方の幅が広がり、理解が深まります。

Point 違う意見について考える学習で楽しさを感じることは、学力向上につながっています！！

友達や先生から自分の考えを認めてもらうことで、自分のよさに気づき、**自己肯定感**が高まります。今回の調査では、「自分には、よいところがある」と感じている児童の割合は全国平均を大きく上回り、協同的探究学習の成果が表れてきています。

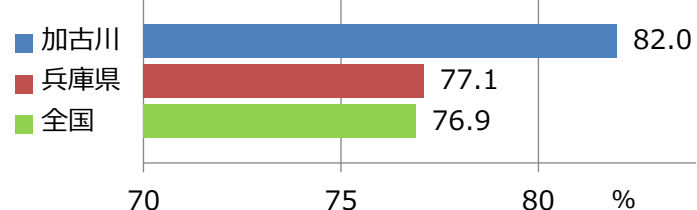
○違う意見について考えるのは楽しいと「思う／思わない」と答えた児童の正答率

※本質問の回答項目には、他に「どちらかといえば思う／どちらかといえば思わない」がありました。



○自分には、よいところがあると答えた児童

※「ある」、「どちらかといえば、ある」と回答した割合のみ表記しています。



●「わかる学力」を家庭で育むことはできるの？

※回答項目（例：「している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない、／していない」）のうち、「している／していない」など2つを取り上げて比較しています。

お子さんの考えに耳を傾けて、認め、励ましましょう！

自分のよいところが認められていると思った児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。お子さんの「やる気」につながるかわりができるか、日ごろから心掛けることが大切です。

- お子さんの思いを受けとめたり、努力を認めたりする。
- 粘り強く取り組むことができるよう学習計画をいっしょに立てる。

様々な話題で会話をしましょう！

相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受けとめたうえで自分の考えをしっかりと伝えている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。

ご家庭でも、様々な話題で会話をする中で、お子さんが広い視野でものごとを見ることができるようになります。

- 新聞などの記事や学校の様子について話をする。
- お子さんが興味をもっていることを話題にする。
- いっしょに料理や作業などをしながら話をする。

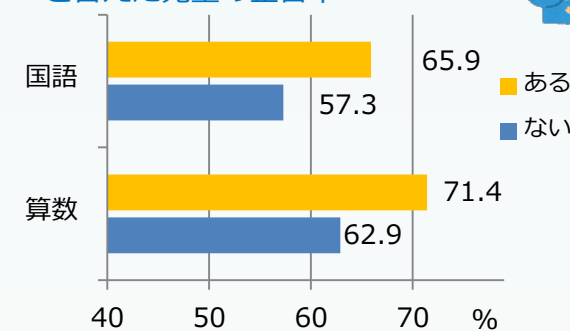
読む習慣を身につけましょう！

ふだんから読書をしている、または身近なところに本がある児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。

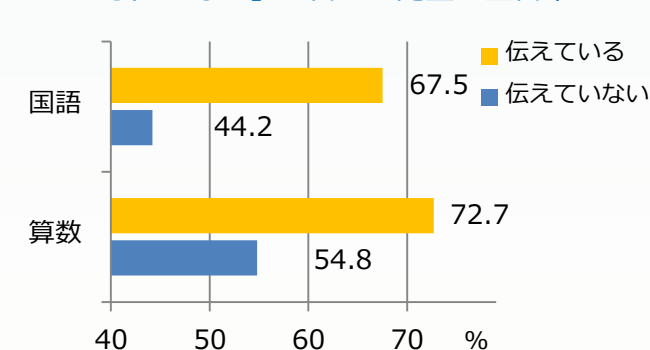
読書をしたり新聞を読んだりすることで、知識や情報を得たり、他の考えに触れたりすることができます。読む習慣を身につけさせるためには、次のような方法があります。

- 面白かった本をお子さんにすすめる。
- 親子で一緒に図書館に行き、読んだ本の感想を伝え合う。
- 1日の中で「読む時間」を決めて、みんなで読書に取り組む。

○自分にはよいところが「ある／ない」と答えた児童の正答率

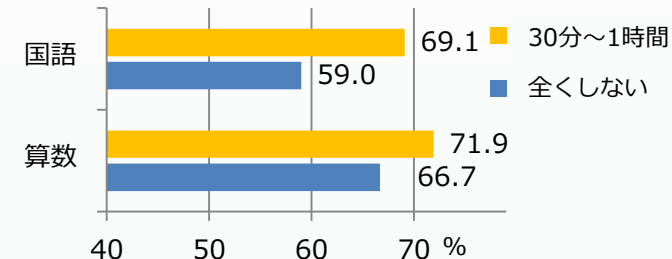


○相手の考えを聞き、自分の考えを伝えて「いる／いない」と答えた児童の正答率

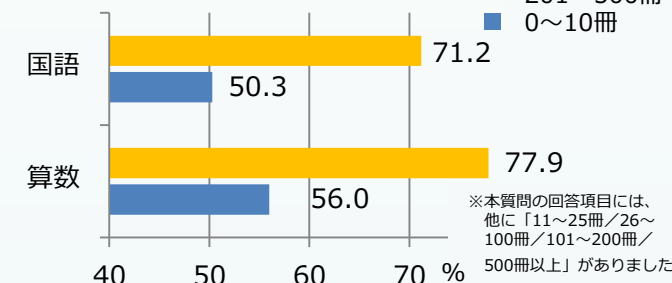


○1日当たりの読書時間による正答率

※本質問の回答項目には、他に「2時間以上／1～2時間／10～30分／10分以下」がありました。



○家にある本の数による正答率



日本の子どもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。子どもは本来、自分の思いや考えたわけを表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と子どものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感や「わかる学力」が育ってきます。

